



高額療養費の改定が2025年8月から実施されようとしています。  
この改定は、がん患者や難病患者にとって大きな負担となる可能性があり、  
2025年2月現在ではなおも様々な議論が出ています。

しかし、多数回該当となる方の負担率の調整は変更となる可能性があります  
が、所得に応じて負担額を増やしていく方針は大きく変わらないのではない  
でしょうか。

現時点で想定されている高額療養費の改訂がどのくらいのインパクトを持つ  
ものなのかをシミュレーションを通じて解説します。

民間の医療保険を考えるきっかけにしていいただければ幸いです。



シミュレーションをする上で3つの区分を設けました。

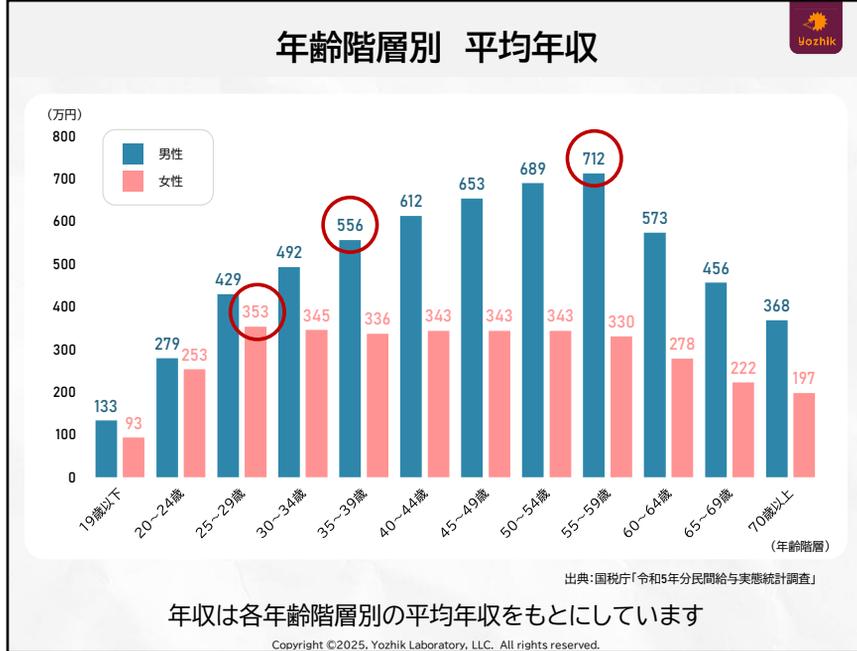
Aさんは新入社員の女性です。年収が353万円

Bさんは入社10年目の男性で年収が556万円

Cさんは入社30年目のベテラン男性で年収が712万円

だと仮定しました。

このモデルは、現在のそれぞれの年齢に応じた平均年収額を元に作成しています。



国税庁の「令和5年分民間給与実態調査」によると、平均年収はこのグラフのようになっています。

- Aさん353万円
- Bさん556万円
- Cさん712万円

## 治療費の前提

結腸がんの種類(イメージ)

\*1 10割の医療費  
\*2 出典:公益社団法人全日本病院協会「医療費」重症度別【年間】2024年6月25日によると、結腸癌の悪性新生物におけるステージIIの医療費

結腸がんは大腸がんの一つです。2020年の国立がん研究センター「がん罹患数の順位(2020年)」によると大腸がんは最も罹患患者数の多いがんとなっています。

結腸がんの悪性新生物におけるステージIIの医療費\*1

1入院あたり**平均141万4,713円**\*2

3か月かけて治療を行ったと仮定すると…

| 術前検査      | 手術        | 抗がん剤治療    |
|-----------|-----------|-----------|
| 47万1,571円 | 47万1,571円 | 47万1,571円 |

3人が結腸がん(ステージII)に罹患ケースで治療費を試算します

Copyright ©2025, Yozhik Laboratory, LLC. All rights reserved.

治療費のシミュレーションを行う上では、高額療養費制度が役立つケースを元に算出します。

ここでは大腸がんのひとつである結腸がんを例に取ります。

大腸がんは2020年の国立がん研究センターの調査によると、最も罹患患者数の多いがんです。結腸がんにも様々な細かい名称があり、具体的にはこのイラストのような部分でがん細胞ができたものを指します。

公益社団法人全日本病院協会「医療費」重症度別【年間】2024年6月25日によると、結腸癌の悪性新生物におけるステージIIの医療費は1入院あたり平均141万4,713円となっています。

1入院と言っても、治療前には術前検査があり、入院時には手術、そしてその後に抗がん剤治療を通院しながら行うようなケースもこちらに含まれます。ですから、3か月の闘病期間があったという仮定で考えると、毎月の治療

費は3等分した47万1,571円であったと仮定することができます。



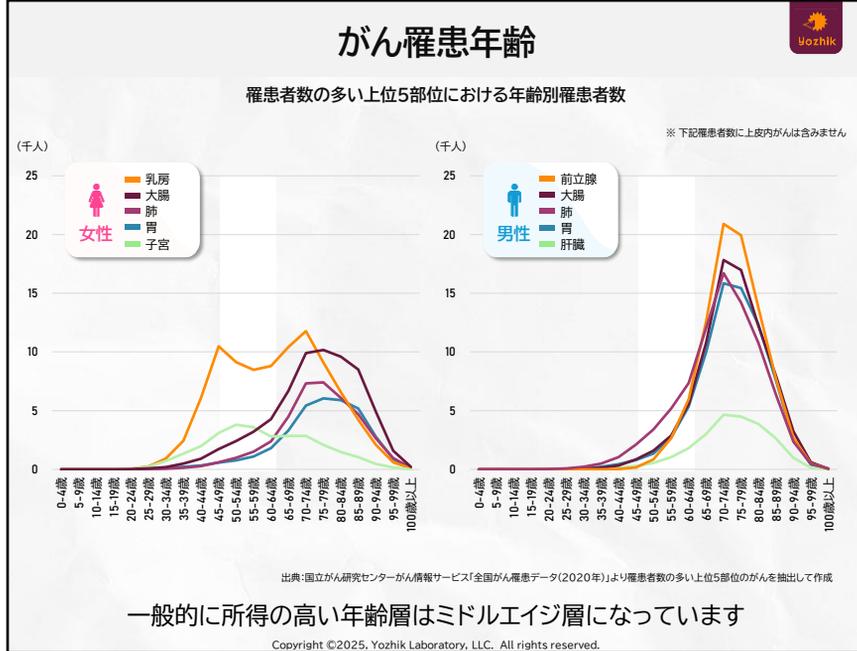
では、ひと月あたりの総医療費が47万1,571万円の治療が3か月続いた場合、2025年7月末までの高額療養費制度と2027年8月以降では、どのくらいの負担増になるのでしょうか？

- **まず新入社員のAさん**  
3か月で17万2,800円の自己負担だったものが23万7,600円になります。6万4,800円の負担増です。
- **入社10年目のBさん**  
3か月で24万6,300円の自己負担だったものが34万2,900円になります。9万6,600円の負担増です。
- **入社30年目のCさん**  
3か月で24万6,300円の自己負担だったものが41万5,800円になります。16万9,500円の負担増です。

今回の改正は、所得の大きい人により大きな負担をしてもらおうという改正です。でも、それは本当に納得感があるのでしょうか？

終身雇用であった会社員にとって、一般的に高所得層と思われる層は40歳後半から65歳までの、いわゆる就職氷河期世代層です。この世代は、これまで

も大きな保険料負担を担ってきました。その層がやっと管理職になったところで、狙い撃ちをされています。  
ちなみに近年、給与が上昇していない層も50代の層です。



そして、実はその世代というのは20代や30代と比べると、明らかに三大疾病の罹患率は上がる世代でもあります。このグラフは年代別のがんの罹患者数ですが、男女ともに、大腸、肺、胃のがんは中高年で罹患しやすくなります。

大病を患っても、社会保険制度を維持する必要があると言われて頑張ってきた層が、いざ罹患しやすい年代になると自己負担増になるという、とても悲しい現実にあついています。

もし、40代を過ぎてこれからの社会保険制度や医療保険制度に不安を感じるのであれば、民間の医療保険を検討する価値はあります。

というのも、国の用意している健康保険制度の最大のメリットは**どんなに大きな既往症があっても加入でき、所得が小さいほど守られる仕組み**であるという点です。ですから、社会を支える役割として、病気の方や低所得層を守るために支払っている税金と同じなのです。保険ではありません。

普通以上の所得のある人は、他の人よりも多く健康保険料を支払っているにもかかわらず、いざ病気になると自己負担がふえるという事態になっています。これでは、中流所得から高所得者が良い治療を受けることはできません。

もし、民間の医療保険を検討できる健康状態を維持できているならばチャンスです。まずは、三大疾病から警戒して民間の医療保険の加入を検討することをお勧めします。

## ご留意下さい



### 免責事項

- ・この資料は2025年2月時点のデータに基づいて制作しております。  
制度等が将来変更となった場合、資料修正が間に合わないことがあります。
- ・細心の注意を払ってグラフ化しておりますが、万一データに齟齬があった場合でも、当社が責任を負うものではありません。
- ・当資料の利用により個別事案の結果に影響があったとしても、それによる損害等について、当社は一切の責任を負いません。
- ・利用にあたっては、所属組織・販売担当者ご自身の判断でご活用ください。

### 著作権

- ・この資料はヨージック・ラボラトリー合同会社が運営するY-Salonの会員のみ利用できます。
- ・当資料に掲載している文章、データ、画像など、全ての著作権は当社に帰属します。

Copyright ©2025, Yozhik Laboratory, LLC. All rights reserved.